



檜 の 花

文学部教授 関 清 秀

大学附属図書館についてはさまざまな思い出があるが、たいていの図書館は、独自の雰囲気というか、それなりの個性をもっている。

アメリカ東南部のある大学の社会科学研究所に籍をおいて、大学の日常的業務から全く解放され、自分の研究室と図書館のキャレルに通うことだけが仕事である日を過していた頃が懐しく思い出される。

その大学の建物は、エルムや檜、樅、柏、松等のうっそうたる原始林の中に点在し、図書館への小径にはいつもリスが木の実を求めて駆け回っており、カーデナルとかハニー・バードとか、わたくしにはもの珍らしい色とりどりな小鳥が林を縫って飛び交い、囀っていた。いまごろの季節になると、木という木はことごとく大きな花をつけて一斉に春を競い、人口8千のその大学町は、むせるような芳香に包まれる。決して誇張ではない。図書館の奥にまで香りが漂ってくる。書庫のエレベーターにたまたま乗り合せた見知らぬレディーが、鼻をくくんさせながら“グット・スメル!!”と話しかけてきたときには、心から同感の意を表わせざるをえなかった。

その州の花ドッグ・ウッドをはじめ、マグノリア、レッドバッド、そしてこれは紛れもなく日本産の桜、それも吉野、八重、枝垂桜など枝もたわわに咲き誇って、やまとおのこの旅情を慰めてくれた。北大構内では多年にわたって見のがしていたわけで申し訳けないが、エルムが花を、しかもあんなにも大きく見事な花をつけるものと知ったのは驚きであった。考えてみれば、どの木にも花が咲くことに不思議はないわけだが、いわば雑木と思っていた木々に芳ばしい大きな花をみて、発見のような気がしたのである。

読書にうむと、わたくしはよく三階の新聞閲覧室へ行った。天井が高く、窓が大きく、机は窓外の緑を映してさわやかで、広い部屋にあまり人影はなく、何よりも、世界各国の新聞や週刊紙に居ながらにして眼を通せるのが有り難かった。ここで与えられる知識や印象は、日本人の手で編集され日本で発行される国際情報からうけるものとは、趣がほとんど全く異なるものだといってよい。

この部屋でわたくしは強烈なショックをうけたことがある。丁度ナセル大統領がスエズ運河を封鎖し、イギリスが地中海に強力な艦隊を派遣してこれを威嚇していたときで、この一触即発の危機に際して「マンチェスター・ガーディアン」紙はイーデン首相のこの方針に断乎反対し、火を吐くような論説を連日執拗にくり返してやめなかった。世界平和という大理想のもとに、自国政府の国策変更を強要して憚らない気魄の鋭さに、筆をもつものの心構えを今さらのように思い知らされると共に、複雑な国際状況の中での日本の運命を思わずにはいられなかった。その「ガーディアン」紙もいまはない。

◆会 議

第45回 図 書 館 委 員 会

<と き 昭和45年3月27日(金)>

<ところ 附 属 図 書 館 会 議 室>

1. 第1種および第2種閲覧個室の利用者選考が行なわれた。
2. 国立大学協会図書館特別委員会中間報告についての検討が行なわれた。なお、意見等については、次回委員会で決定することとなった。

第46回 図 書 館 委 員 会

<と き 昭和45年4月3日(金)>

<ところ 附 属 図 書 館 会 議 室>

1. 前回委員会から継続審議となっていた国立大学協会図書館特別委員会中間報告に対する意見等について、本館から(案)が提出され、種々審議ののち、原案どうり予承された。

全学図書(担当)掛長会議

<と き 昭和45年3月28日(土)>

<ところ 附 属 図 書 館 会 議 室>

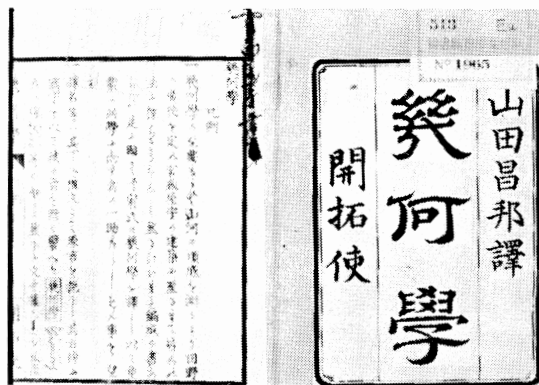
1. 国立大学協会図書館特別委員会中間報告について協議された。

◆特 別 寄 稿

日本最初のユークリッド訳

黒 田 孝 郎

幾何原本とよばれているものは、長い間かかって形成されたものを、アレクサンドリアでエウクレイデスが紀元前300年ごろ集約大成したものだといわれている。それは定義を定め公理を前提として論理的に構成するという形態をとっているもので、プラトンに負うところが多いとされている。さらにその叙述の方法はデカルトやパスカルによって高く評価され、ガリレオやニュートンが近代自然科学を定立させる本を著したときにも用いられたものである。このような方法で推論を進めることは、旧来の日本人にとっては異質的なものであって、それを何時、どのようにして学びとったか、ということは興味ある問題である。



ユークリッド「幾何学」最初の邦訳(明治5年)

この幾何原本の日本語で最も古いものは、現在のところ北大図書館に保存されているつぎの本であるといえる。

山田昌邦訳「幾何学」開拓使

この本の巻頭にある凡例は「幾何学の必要なるや」とその必要性をとき「然るにいま編成の書あらず是に因て予宥氏の幾何学を訳し以て童蒙の此に志す者の一助たらしめん事を望

む」と記し、「明治五壬申夏季山田昌邦識」と結んでいる。なおここでいう宥氏は、ユークリッドのことを指していることはいうまでもない。図書館にある「明治21年12月、札幌農学校和漢書目録」には

英国ユークリッド氏原著 山田昌邦訳
幾何学 明治五年 十三部

とある。学校では教科書を貸与したのであるから、この本は教科書として用いられたと考えられるし、また事実明らかに生徒が用いた形跡がある。

明治5年といえばその年の4月15日に開拓使仮学校が開設されたのであるが、翌6年3月14日には俄かに閉じ4月再び開校する。この時、数学教師として山田昌邦の名前が現れる。そして明治9年、札幌農学校となったとき「予備科はクラークを以て科長とし……数学に山田昌邦……の各職員あり」としている¹⁾。一方、開拓使は明治5年3月22日につぎのような伺を文部省に出している²⁾。

……当使訳官并洋学者流へ附托シ西洋群書中ヨリ拔萃……活字ヲ以テ開版致度候間、差支有無至急御回答有之度候也

山田昌邦訳の幾何学は活字版でなく板木に刻んだものであるから、この文書でいうものに該当するとは考えられないが、開拓使におけるこのような動向によって出版されたものとみてよいであろう。

この本の訳者である山田昌邦は1848年の生れで³⁾、徳川家が静岡に引きこもったとき沼津につくった兵学校の教授方手伝となった人で⁴⁾、1918年ごろには東京製鋼会社の社長になっていたといわれている⁵⁾。彼の訳した原本は訳書の中に記していないが、術語の訳のつぎに英語を付記してあるところから英語からの訳であることは確かである。わたくしは、Todhunter の Euclid's Elements (1862) と対比して、この本からの訳であろうと推定する。このころわが国の教育界は米国の影響を受けることが大きく、幾何学の本も米国から渡来したものが用いられた。ところが米国の幾何学はフランスの影響を受けることが大きく、Legendre によって編修されたものの英訳が広く用いられた。この本はある意味では近代化されたユークリッドであって、ギリシアの伝統的な幾何原本から離れるところがあった。それに対して山田昌邦の原本にしたとみられる英人 Todhunter の本は、はるかにユークリッドの元の形に近い。山田昌邦の訳したのは第1巻の「設題21・定義凡三角の内に一点を設け下辺の両端より此点に直線を引く時はこの両線の和は三角両辺の和より小なるべし又此点に作る所の角は三角の頂角より大なるものなり」の証明で終わっている。ここまでのところを、ユークリッドの幾何原本の本文研究として定評のある T. L. Heath の The Thirteen Books of Euclid's Elements, 1926, Cambridge Press. と比べてみると、公準4, 5が公理に移行するなど公理に若手の手なおしと定義に僅かの変更があるほか、特に命題とその証明は表現に式を用いていること以外はきわめてギリシア伝来のものに忠実である。Todhunter の一連の教科書は、明治10年ケンブリッジ大学を卒業して帰国し東京大学教授となった菊地大麓によって推奨された。そして彼は、幾何学は英国流にギリシアの伝統によるべきであるとした。それらのことを考えると、山田昌邦の訳は早く出すぎたのかも知れない。それにしても出版が開拓使では流布もされなかったであろう。山田昌邦は、明治10年には札幌農学校で授業を担当していないので⁶⁾、この頃はすでに離任していたのではないかと思われる。

1) 創基50年記念北海道帝国大学沿革史, 19頁, 50頁。

- 2) 開拓日誌 (新北海道史第7巻 847頁).
- 3) 小倉金之助: 近代日本の数学 (1956) 188頁.
- 4) 米山梅吉: 幕末西洋文化と沼津兵学校 (1934, 東京) 82頁.
- 5) 3) に同じ.
- 6) 開拓使, 外国人贈答録. (道庁保管).

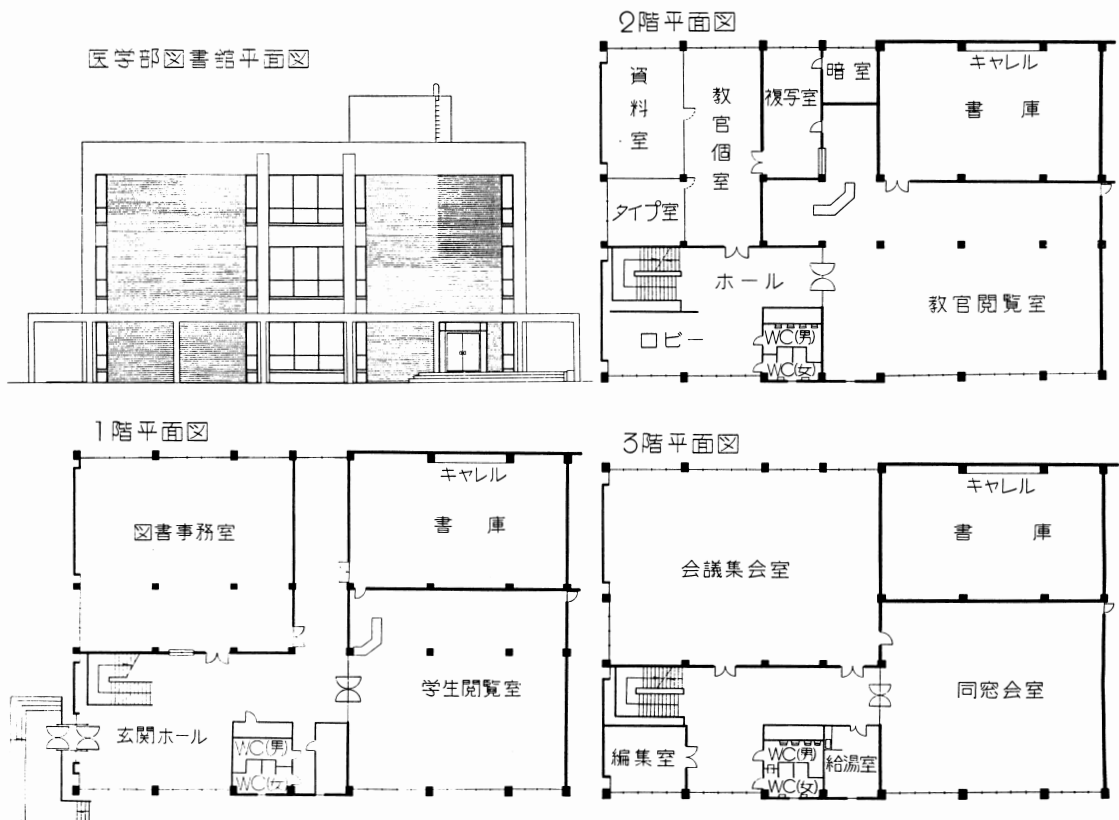
(筆者は前本学教育学部教授 現在専修大学教授)

四 季

医 学 部 図 書 掛

医学部の改築に伴ない医学部図書掛と附属病院図書掛とが合併して、医学系図書館として内容の充実を計ることから、その具体化について検討され始めたのが昨年8月で、それ以前から唯単に病院図書掛との合併については時折討議されて来てはいたもののその実現には到らなかったのである。その後種々の曲折はあったが、図書館としての建物の建築がやっと軌道にのり始めたのが昭和42年で薬学部、医学部、歯学部の三学部を含めた医学系図書館という構想が立てられ、検討されて来たのであった。

我々学部図書関係者にとって最も大事な事は、学習と研究者に対する直接的なサービス機



関であるという事であろう。最も合理的にかつ迅速に文献のサービスをするためには少なくともそれに足るだけの定員と、資料の集中管理がなされなければならない。資料の集中管理は経費の適確な使用という点からも必要なことであり、こうした点から医学系図書館という一つの構想が出てきたものと考えられる。

現在の医学部図書館は5月1日付で附属病院図書掛員が医学部に併任され整理掛(6名)、運用掛(7名)の二掛を置くこととされ、定員内職員10名、事務補佐員3名の計13名で業務を行なっている。医学という学問の特質かも知れないが雑誌の利用がその中心となっていて、内、外国雑誌の利用がその大部分を占めている。利用者は学部教官学生の他に研修医、研究者、他学部教官、市内の病院関係者と非常に幅が広く、医学関係者の中心的な存在でもある。こうしたことから特に電話による問合せ、相互貸借の量が非常に多く、いわゆる参考業務の分野が大きな比重を占めて来ているのである。

こうした事情から閲覧業務の中心は参考事務でありカウンターには常時3名の職員が貸出し業務の他に他学部、他大学、他研究機関との相互貸借業務に専心している。その他、複写業務の円滑化のために現在リコー S II 型 複写器2台、ゼロックス1台、リコピー1台を保有し、学生、研究者が直接複写をみる事により新刊雑誌、その他資料の利用が非常に多くなって居る。此の機器の管理、保守も同時にカウンターの仕事であり、業務としては比重が重い。此の他オフセット印刷機1台を用意し、学部内の簡単な文献印刷、教材、事務文書印刷も手掛けているが、製本はいまのところ全く手が出ない状態である。一応医学部図書館の現状について触れた訳であるが、先にも述べた様に医学という学問の特殊性から研究の公開という責任と更に一刻も速く情報を入手しなければならないという情報のスピード化の点から将来はテレックスの導入という事が真剣に考慮されている。また機械化という点からも業務内容の再検討を始めその機械化に伴う以前の問題点についても考慮が始められつつある。本年8月19日から3日間東日本図書館職員研究集会を北海道大学医学部図書館が当番校として本学において開催されるがその中心は機械化に伴う業務内容の検討がその中心である。

然しながら、ともすれば現実の業務を忘れその機械化をとる昨今、図書館の本質的改善を考え、医学者の強いては医学図書館のもつ社会的責任からも、此の医学系図書館の構想を完成させたいものである。

◆学内図書館だより

〔附 属 図 書 館〕

OECD 寄託図書館に指定されて

OECD (経済協力開発機構) は経済政策、開発援助、貿易、貿易外取引、労働力、社会問題、工業、エネルギー、農業、水産、科学、教育等について、OECD で実施された各種の調査研究、報告をとりまとめ出版物として一般に公表することを重要な仕事のひとつとしている。これらの出版物は各国の代理店を通じて世界各国の人々に利用されているほか、世界各国に寄託図書館を指定して出版物を無料で送付し、広く利用されている。その一環として、去る4月28日(万国博 OECD スペシャル・デー)に万国博会場において、本学代表として今村館長がヴァン・レンネップ OECD 事務総長から指定通知書を受け取り、正式に本学が OECD 寄託図書館となった。それと同時に、4月28日から5月2日まで本館展示室で OECD 出版物および OECD 関係写真の展示会を行ない、その期間中総計515名の参観者を数え、参観者には OECD

出版物の展示目録を配付した。OECD 寄託図書館には、OECD から出版されるすべての出版物が送付され、その出版物は、人文社会科学系および自然科学系の両面を取り扱っているので、関係者の利用を期待したい。所蔵場所は、その資料が利用し易いよう考え、参考図書閲覧室(4階)の東北の場所をあて、すでに整理を終り、所定の場所に配列を完了して利用出来る状態にある。なお、参考までに5月20日現在、OECD から本学に送付された出版物は総数234冊であり、その主題別冊数は下記のとおりである。

区 分	経 済	国際貿易と 支 払	統 計	開 発	農 業 食 料 漁 業	エネルギー (一般、原子力、 電力、ガス、石油)
冊 数	25	21	42	24	52	12
区 分	産 業 (産業部門、経 営、運輸、観光)	労 働 力 と 社 会 問 題	教育と科学 (教育科学投資政策 科学的産業調査)	全 般 的 インフォー メーション	定期刊行物	
冊 数	17	6	30	5	7	

「大学の研究と教育にたいする図書館の在り方とその改革 について(中間報告案)」について

さきに、国立大学協会図書館特別委員会委員長から本学あて標記中間報告案についての意見を求められたことについて、本館では、数次にわたり図書館委員会にはかり、その意見を学長に具申しました。同意見は、評議会です承され、本学の意見として上記委員長あて提出されました。

北海道大学所蔵学術雑誌総合目録(欧文篇)の編さん計画について

本館では、今年度の計画の一つとして、標記目録の編集、発行を計画中です。

昨年4月に和文篇が発行され、引き続き欧文篇の編集を計画していましたが、約4カ月にわたる封鎖という事態のため一時中断しました。しかし、各部局から欧文篇の早期発行を強く希望されており、本館としても各部局の協力を得て鋭意努力を重ねています。

たまたま、文部省編「学術雑誌総合目録自然科学欧文篇1966年版」のサプリメント版(あるいは改訂版)編さんのための原稿カード提出時期と重なりそうなので、それに合わせて具体的に準備を進めたいと考えています。

この目録は、本館が各部局からカードまたはリストで定期的に欧文新着雑誌の受入報告を受けて作成している「チェックカード」を原稿として編集する予定ですが、このカードは、受け入れた時点で記入されたものであり、その後所蔵状況の変更が予想されます。このため、本館では、できるだけ正確に所蔵状況等を把握したいと考え、昨年から部局の実状に応じて報告を受け、チェックカードを改める作業をすすめています。この作業のため、毎月の新着雑誌の報告は、数部局を除き、正式には再開していませんが、近く連絡する予定です。

一応8月頃までにこの作業によるチェックカードの書き換えおよび補強を終え、その後1~2回の新着の報告を受けた後、目録編さん作業に着手したいと考えていますが、もう少し定期的にはっきりした時点で、再度お知らせしたいと思います。

編集上の詳細事項等については、各部局担当者による事務打ち合わせ等を聞きたいと思い

ますが、現在、問題点等を担当掛で検討中であり、それらを取りまとめた後で、おはかりしたいと考えています。

本館としては、できるだけ正確な良い目録を作りたいと思いますが、結局は各部局の報告がもとになりますので、その点を留意のうえ、ご協力お願いします。

本館所蔵新聞目録を印刷

本館は明治末期から新聞の保存に努めたため、現在では書庫1層の新聞コーナーに古くからの新聞が多数現物のままで保管されています。これらの新聞の中には、「樺太日々新聞」(明治43～昭和17)、「北海タイムス」(明治37～昭和17)、「小樽新聞」(明治40～昭和17)、「室蘭毎日」(大正10～昭和15) その他本館以外では所蔵のまれなものが少なくありません。全国紙についてみれば、「大阪毎日」(明治39～昭和17)、「東京朝日」(大正4～昭和15)、「東京日日」(明治38～昭和17)、「読売新聞」(明治40～) などがあり、また「萬朝報」(明治39～昭和9)なども所蔵されています。

以上のほか最近では「朝日新聞」のマイクロ版や「日本民衆新聞」、「日本労農新聞」、「平民新聞」などの複製版が購入されています。また「北海タイムス」等稀少な新聞については、本館複写室においてマイクロ化に着手しております。

現在では本館は国内の主要な日刊紙、各大学の新聞、政党機関紙、読書新聞などのほか10数種の外国の有名新聞を受け入れており、また主要新聞の縮冊版については、これらのほとんどを購入しています。

以上の新聞コレクションについて、本館では昭和37年以来数回にわたり目録を作成しましたが、今回の目録はその決定版ともいえるものです。100種以上にわたる各新聞について創刊、改題、統廃合などの記載があり、また新聞研究の参考文献も付されています。

「北海道大学附属図書館所蔵 新聞目録」昭和45年5月刊 オフセット印刷
B5版 10頁

諸部局へ保存用学内出版物収集の協力を依頼

本館は北海道大学が発行する出版物について、その収集、保存の責任を負うことになっています(昭和42年6月14日海大達第27号)。このため諸部局からは毎月多数の出版物が本館あてに送付されており、その収集状況についてはすでに「榆蔭」第2巻4号(昭和43年7月)に紹介したとおりです。しかし、保存出版物の種類について必ずしも規定の主旨が十分に徹底しない場合もあったので、本館では先頃再び諸部局に対し出版物の継続送付を依頼しました。その結果諸部局の大きな協力が得られ、これまでの送付のもれていた出版物が続々と送られてきています。

これらの出版物には、④ 研究報告・紀要 ⑤ 部局の概要、案内、規程、名簿 ⑥ 講義要目・学生便覧 ⑦ 沿革関係出版物 ⑧ 同窓会出版物、学生団体出版物などがあり、これらは近く設置される「北海道大学沿革資料室」に保管される予定です。利用については、「北方資料室」までお申し出下さい。

なお、これらの出版物は貸し出しをしませんので、紀要類を閲覧したい場合は、参考図書閲覧室の学術雑誌コーナー(未製本雑誌)や一般閲覧室(製本済雑誌)をご利用下さい。

List of the Foreign Periodicals Subscribed for the Year 1970 の配付について

このリストは毎年各部局へ配付し、利用に供しておりますが、昨年は補遺版の発行しか出来ませんでしたので、本年は本文 66 頁として作成、配布しました。雑誌の点数も一括購入実施当初約 3,300 点が、本年は約 4,100 点に増え、契約額も約倍の 7,000 万円余となっております。

今後も年々増加することでしょうがリストには所属部局名が入っておりますので購入、重複等調査にもご利用下さい。なお、部局別契約額（後金については予定額）は次のとおりです。

部 局	区 分		
	前 金 (net/1,185) (円)	後 金 (net/1.23) (円)	合 計 (点数) (円)
文 学 部	1,090,958	569,126	1,660,084 (282)
教 育 学 部	655,392	105,089	760,481 (128)
法 学 部	819,448	242,864	1,062,312 (139)
(附属スラブ研究施設)	214,226	67,554	281,780 (61)
経 済 学 部	681,020	176,132	857,152 (151)
理 学 部	11,363,687	3,404,644	14,768,331 (576)
医 学 部	7,454,167	1,383,163	8,837,330 (464)
(附属温泉治療研究施設)	138,887		138,887 (17)
(附 属 病 院)	230,651	19,611	250,262 (23)
歯 学 部	2,339,726	162,389	2,502,115 (123)
(附 属 病 院)	34,128	5,000	39,128 (3)
薬 学 部	2,788,753	81,465	2,870,218 (77)
工 学 部	11,309,335	1,647,961	12,957,296 (771)
農 学 部	5,732,153	943,040	6,675,193 (520)
(附 属 農 場)	43,513		43,513 (3)
(附 属 演 習 林)	173,656	48,611	222,267 (23)
獣 医 学 部	1,823,743	440,323	2,264,066 (133)
水 産 学 部	3,718,630	651,730	4,370,360 (236)
教 養 部	562,880	52,502	615,382 (83)
低 温 科 学 研 究 所	1,895,411	79,215	1,974,626 (84)
応 用 電 気 研 究 所	2,285,180	396,577	2,681,757 (78)
触 媒 研 究 所	1,564,580	147,641	1,712,221 (40)
結 核 研 究 所	1,557,118	80,557	1,637,675 (38)
附 属 図 書 館	995,263	1,722,637	2,717,900 (44)
合 計	59,472,505	12,427,831	71,900,336 (4,097)

閲覧個室の利用再開について

閲覧個室は昨年の封鎖に伴い、利用が一時中断されましたが、その後、整備をすすめてきた結果、さる 4 月 1 日から利用が再開されました。今期の利用期間は 9 月 30 日（第 2 種は 6 月 30 日）までです。

なお、同室は本館が所蔵する図書館資料の利用の便宜を計るため設けられており、利用は、北海道大学附属図書館閲覧個室利用内規（昭和43年2月28日制定）に基づき、公示して申し込みを受けています。

ドイツ新刊書展示会開催

さる4月1日から3日までの3日間、標記展示会が開催されました。同展示会は、本館、出版文化国際交流会およびドイツ出版協会が主催してドイツ連邦共和国における最近の出版情勢を概観する機会を提供するために開かれたもので、語学・文学研究、歴史・時事、経済・社会、哲学、医学、自然科学等の書籍および雑誌約4,500冊が展示され、期間中多数が参観しました。

◆ 統 計

○ 部 局 別 蔵 書 冊 数

（昭和45年3月31日現在）

部 局	和 書	洋 書	合 計	備 考
文 学 部	89,656	67,480	157,136	
教 育 学 部	15,664	10,409	26,073	
法 学 部	34,186	65,124	99,310	
経 済 学 部	40,225	25,899	66,124	
理 学 部	26,931	69,513	96,444	
医 学 部	36,348	48,680	85,028	附属病院を含む
歯 学 部	1,362	622	1,984	"
薬 学 部	1,114	1,979	3,093	
工 学 部	84,112	79,526	163,638	
農 学 部	99,750	72,884	172,634	附属農場、附属演習林を含む
獣 医 学 部	5,672	8,679	14,351	
水 産 学 部	39,541	22,819	62,360	
低温科学研究所	3,548	6,067	9,615	
応用電気研究所	2,634	3,894	6,528	
触媒研究所	1,046	2,279	3,325	
結核研究所	1,475	2,112	3,587	
事 務 局	434		434	
学 生 部	126	48	174	
附属図書館	204,804	84,833	289,637	教養分館を含む
合 計	668,628	572,847	1,261,475	

○ 昭和44年度部局別図書・雑誌受入冊数

部 局	和 書					洋 書					備 考
	購入 (単)	購入 (雑)	寄贈 (単)	寄贈 (雑)	小計	購入 (単)	購入 (雑)	寄贈 (単)	寄贈 (雑)	小計	
文 学 部	1,865	45	81	75	2,066	3,565	107	564		4,236	
教 育 学 部	461	8	17		486	100		10		110	
法 学 部	862	300	171	295	1,628	971	1,196	387	121	2,675	
経 済 学 部	915	160	421	153	1,649	923	308	88	6	1,325	

	和 書					洋 書					備 考
	購入 (単)	購入 (雑)	寄贈 (単)	寄贈 (雑)	小計	購入 (単)	購入 (雑)	寄贈 (単)	寄贈 (雑)	小計	
理 学 部	1,016	102	7	110	1,315	2,091	1,249	34	408	3,782	附属病院を含む
医 学 部	1,336	503	43	175	2,057	692	307	44	30	1,073	
歯 学 部	381		1		382	311	69	2		382	
薬 学 部	291	16	42	3	352	68	345	5	6	424	附属農場，附属 演習林を含む
工 学 部	3,689	492	130	568	4,879	1,433	1,057	27	154	2,671	
農 学 部	4,083	226	201	251	4,761	792	497	129	54	1,472	
獣 医 学 部	125	154	52	163	494	190	348	19	123	680	
水 産 学 部	1,260	612	15	123	2,010	342	558	25	28	953	
低温科学研究所	89	15	31		135	96	178	18	42	334	
応用電気研究所	231	23		18	272	169	610			779	
触媒研究所	28				28	88		8		96	
結核研究所	119				119	98	245			343	
事務局											
学 生 部											
附属図書館	6,900	156	785	656	8,497	926	66	103	175	1,270	教養分館を含む
合 計	23,731	2,812	1,997	2,590	31,130	12,855	7,140	1,463	1,147	22,605	

○ 昭和44年度附属図書館利用統計

閱 覧 室 名	開架図書 閱 覧 室	一般閲覧室②		語学演習室	参考図書 閱 覧 室	北方資料室	合 計 (人)
		館内利用	館外貸出				
開 室 日 数①	151	166	166	153	156	166	
文 学 部	2,792	94	444	440	549	51	4,370
教 育 学 部	939	15	58	79	61	10	1,162
法 学 部	6,901	331	792	225	1,307	12	9,568
経 済 学 部	2,582	117	322	248	511	31	3,811
理 学 部	4,999	83	148	316	159	3	5,708
医 学 部	1,206	14	57	170	24	5	1,476
歯 学 部	47	0	2	0	2	1	52
薬 学 部	638	6	12	8	13	0	677
工 学 部	2,214	19	55	250	150	9	2,697
農 学 部	1,563	29	81	188	63	46	1,970
獣 医 学 部	77	1	5	6	0	4	93
医 産 学 部	0	0	0	0	2	0	2
教 養 部	11,288	250	612	3,159	306	57	15,672
各 研 究 所	0	0	0	0	5	2	7
官 官 ③	4	15	679	0	—	—	698
大 学 院 生 ③	53	21	723	45	—	—	842
職 業 学 校 員 ③	34	12	238	39	—	—	323
学 外 者	324	82	30	0	91	448	975
利用者合計	35,661	1,089	4,285	5,173	3,243	679	50,103 (人)
利 用 冊 数	136,945	2,240	11,002	5,173④	355⑤	501⑤	156,216 (冊)

① 開室日数は封鎖(7~11月)および開館準備のため、例年の約半分である。

② 一般閲覧室の利用者数は、実際に図書の貸し出しを受けた者の数を示す。

③ 参考図書閲覧室、北方資料室の統計では各部局に含まれる。

④ 語学テープの貸し出しリール数。

⑤ 館外貸し出し冊数のみ。

○ 昭和 44 年度 学外への文献複写申込件数

(附属図書館閲覧課参考掛経由)

部 局	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部
件 数	73	39	43	5	134	1	15	12	305	89
部 局	獣医学部	水産学部	低温科学 研 究 所	応用電気 研 究 所	触 媒 研 究 所	結 核 研 究 所	附 属 図 書 館			合 計
件 数	61	5	21	2	2	0	12			819

うち国外申込件数 91 件 (アメリカ 53, イギリス 9, フランス 7, ドイツ 4, オーストリア 4, スイス 3, オーストラリア 2, その他 9)

○ 昭和 44 年度 附属図書館マイクロ、電子複写業務実績 (館内分を除く)

区 分	学 内 (校費)				学 内 (私費)				学 外				合 計			
	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額
基本料金	8	850		400	11	1150		550	34	3450		1,700	53	5350		2,650
マイクロ	7	7,877	8	63,016	11	8,149	8	65,192	34	854	10	8,540	52	16,880		136,748
A 5	3	2,126	20	42,520	8	2,711	20	54,220	5	97	25	2,425	16	4,934		99,165
B 5	5	1,158	30	34,740	4	1,127	30	33,810					9	2,285		68,550
A 4					1	740		280					1	7		280
B 4																
特 撮	2	4	2	8					2	46	2	92	4	50		100
容 器 代	7	710		70	6	1210		120	33	3310		330	46	5210		520
送 料	3	920		180	4	1620		320					7	2520		500
小 計	10			140,934	23			154,492	36			1,745	31			1,745
												14,832	69			310,258
電子複写	141	5,617	30	168,510	532	7,566	30	226,980	816	21,210	35	742,350	1,489	34,393		1,137,840
送 料	101			4,815	13			650	721			54,260	835			59,725
小 計	141			173,325	532			227,630	816			796,610	1,489			1,197,565
合 計	151			314,259	555			382,122	852			811,442	1,558			1,507,823

○ 昭和 44 年度 附属図書館オフセット印刷業務実績

区 分	館 内	部 局	合 計
件 数	151	16	177
製 版 数	737	209	946
印 刷 枚 数 (B 4)	58,071	16,866	74,937
印 刷 枚 数 (カード)	87,871	—	87,871
製 本 冊 数	330	260	590

○ 昭和 44 年度 教養分館利用統計

(館外貸出統計)

(昭和 44 年 12 月 15 日開館, 開館日数 78 日)

区 分	教 養 部	文 学 部	教育学部	法 学 部	経済学部	理 学 部	医 学 部	歯 学 部
人 数	24	1	6	0	24	18	8	1
冊 数	49	3	10	0	49	34	10	2

区 分	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	大学院生	教 官	職 員	学外者	合 計
人 数	7	10	4	0	7	21	50	0	4,980
冊 数	11	18	5	0	11	42	79	0	8,537

(館内閲覧統計)

類 別	0	1	2	3	4	5	6	7	8
冊 数	332	409	39	684	778	3,858	118	188	946
類 別	9	和雑誌	洋雑誌	文庫新書	教官指定				合 計
冊 数	660	10	10	567	496				9,095

◆人物往来

新図書館委員紹介

山 畠 正 男 教 授 (法 学 部) 4 月 1 日 付

所 哲 也 助 教 授 (経 済 学 部) ”

加 藤 英 一 助 教 授 (獣 医 学 部) ”



北海道大学附属図書館報 「榆蔭」 Vol. 4, No. 3 (通巻 18 号)

1970 年 5 月 31 日 発行 発行人 齊 木 一 郎

発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北 8 条西 5 丁目 電話代表 71-2111 (2966)

印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北 3 条東 7 丁目 電話代表 23-5560